

こんな活動です

心豊かでたくましい青木村の子供の育成 - 今こそ子供に社会力を -

長野県青木村

活動名

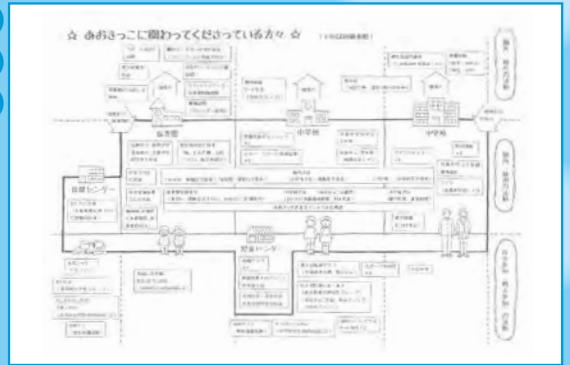
青木村を愛する活動
青木村立青木小学校

関係する学校名

青木小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	4人	120人	無	19年度	無	有	無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携				
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動概要
 村では「一人の子どもを育てるには村全員が関わらなければならない」という意識のもと、(1) 多くの人が子どもに関わり、子どもたちの『社会力』を育てる (2) 心豊かな、たくましい青木っ子の育成 (3) 青木村に誇りの持てる子どもを育てることを目標とし、保・小・中の連携と一貫教育を背景に、村教委、PTA、公民館、保育園・小・中学校、児童センター、大学・高校、地域サークルが連携・協働する「青木村はつらつプラン」を立ち上げた。その中で本校は、書写や音楽の授業、放課後の寺子屋、総合的な学習の時間での米作り・義民太鼓、地域体験としての農村体験等、学校支援ボランティアが定期的に関わる活動を継続している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

村の教育目標の重点項目である、「保小中一貫教育」・「多様な他者や自然とのかかわり」・「学力・体力の向上」・「子どもと向き合う時間の確保」・「一人一人を大切に教育」のこれら5つを学校運営の重点に据え、「あかいい子・かしこい子・たくましい子」の学校目標の具現に努め、村と歩調を合わせた教育活動を展開している。特に「多様な他者や自然とのかかわり」では、「寺子屋」と称する学習支援活動を活発に行っている。水曜日を除く平日の4日間、宿題や課題を中心に放課後の30分間を「寺子屋」の時間に充てている。ボランティアは現役のPTAやPTAのOBなど8名が登録されていて、日常的に4名ほどが学習支援を行っている。設立当初からかかわっているボランティアは、「自分の子どもが卒業しても他のお父さんの学習支援をさせていただき、生活に張りがあります。」と語っている。

【実施に当たっての工夫】

「寺子屋」の時間は、宿題以外にも担任から補充学習が必要な児童個々に課された課題をボランティアと一緒に解いたり、ヒントを出したりする個別指導の時間ともなっている。また、本校では低学年・中学年・高学年で下校時刻がまちまちであることから、低学年の児童は寺子屋で宿題をやりながら、高学年の兄や姉を待っている姿が見られ、児童センターの役割を果たしているようすも見られる。さらに、全ボランティアと全職員は、学期に一度、「寺子屋」に通う児童のようすなどについて情報交換を行っている。また、教頭や学級担任が必要に応じてボランティアと連絡を取り合い、日程や時間調整、児童のようすについての情報交換など、日常的な連携・協働が図られ、「寺子屋」の活動がスムーズに運営されている。

● 事業を実施しての効果・成果

農村体験やおおきこホームステイ、地域サークルの方による日常の授業支援などにより、地域に対する興味が高まり、理解が深まった。とりわけ、おおきこホームステイでは「堀内さんちはおしゃべりがおおく、みんなおこらずやさしい人たちです。いきてゆくのによくだつさぎょうばかりでした。(5年生)」、「子供が『参加する』と言ったの聞いて、人との関わりを楽しんで感じられるようになったのかと思いきや嬉しく感じました。(4年生保護者)」などの感想が寄せられた。ある学校支援ボランティアは、「『村の子は村で育てる』』という意識のもと、学校外でも子供たちに声をかけたり、見守ったりすることが多くなった」と語っていた。

● その他

高学年の児童一人一人にタブレットを配付し、日々の授業はもちろん、ドリル学習にも活用している。



農村体験



学習支援（書写）